

<2024年度版>

# 環境経営レポート

2023年9月～2024年8月



フタバ食品株式会社

2024年11月19日

## 1、環境方針

# 環境理念

当社は、全世界の課題である地球環境保全を企業活動の最重要課題として認識する。かけがえのない地球環境を大切にすると共に環境に配慮した企業活動を通じ、次世代へより良い地球環境を引き継ぐことを目指します。

# 環境方針

当社は、食品の製造・販売を主とする企業活動において、地球環境の保全に積極的  
に取り組み改善活動を進めていくために、以下の「環境方針」を制定します。

1. 法令遵守  
環境に関する法規則、業界団体のルールを遵守します。
2. 3R『Reduce(削減)・Reuse(再利用)・Recycle(再生利用)』の取り組み  
省エネルギーによるCO2・廃棄物排出量の削減、天然資源使用量の削減、再生・  
再利用に取り組みます。
  - ・食品廃棄物のリサイクル率の向上に努めます。
  - ・グリーン購入を推進します。
  - ・容器包装リサイクルの減量化に努めます。
3. エコアクション21の取り組み  
マネジメントシステムにより、継続的改善を進めます。
4. 汚染の防止  
環境の汚染に対し、未然防止に努めます。
5. 人材育成  
社員の環境への意識向上と保全への取り組みのための教育訓練を継続的に行い  
ます。
6. 社会との共生  
環境問題に対し、常に自然や社会との共生を図ります。また、コミュニケーションを大切にします。

令和3年12月1日

フタバ食品株式会社  
代表取締役社長 齋藤 貞大

## 2、環境目標

### 環境経営目標

2024年度環境経営目標を下記2点重点項目とする。

#### 記

1. 二酸化炭素排出量の削減（電力・化石燃料）

「2030年度長期目標 2013年度対比50%削減」を達成するため  
今年度2013年度対比15%削減を各部の削減活動で達成する。

各工場がグリーン電力に切り替え済み長期目標は達成済みであるが  
既存設備の高効率設備への更新及び化石燃料の使用量削減に努める。

2. 食品廃棄物発生量削減（食品ロス）

「2030年度長期目標 2018年度対比50%削減」を達成するため  
今年度2018年度対比27%削減を各部の発生抑制活動で達成する。

上記 各事業所毎 長期目標に基づき進める。

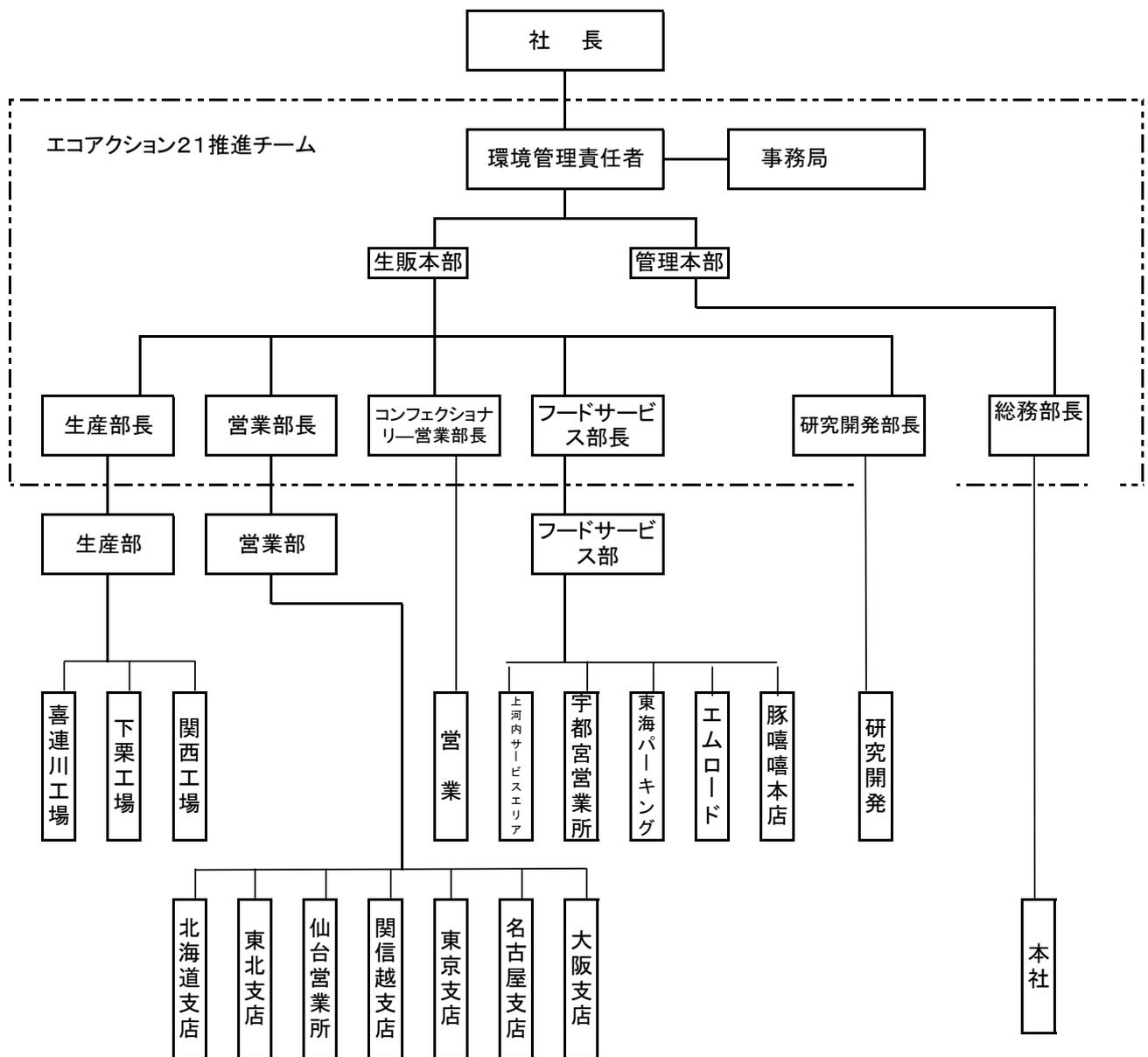
2023年9月1日  
環境管理責任者  
水野谷 邦治



(8)事業規模 2024年度 (2023年9月から2024年8月)  
 創業 昭和20年12月 (1945年12月)  
 資本金 4億9,200万円  
 年商額 231億9,200万円  
 従業員数 476人 (契約社員・パート社員を含む。)

(9)認証登録範囲 当社は、全ての組織、全ての事業活動をエコアクション21認証・登録の対象範囲としている。

### 3、環境組織図



#### 4. 主な環境活動計画、環境活動の取組みの評価

環境目標	取組内容	サイト	取組の評価	
二酸化炭素排出量の低減	電力による二酸化炭素排出量	・3工場の省エネ診断実施	工場	○
		・省エネ設備導入に向けての調査・策定	工場	○
		・不要な点灯をなくす	フードサービス	○
		・エアコンの適正温度設定	全事業所	○
		・動力設備(高圧機器)に関する事項	工場	○
		・エアーコンプレッサーに関する事項	工場	○
		・不要時の暖房機・照明・空調の過剰使用厳禁	営業部	○
		・パソコン、OA機器の不使用时電源OFF	全事業所	○
	化石燃料の適正利用	・ボイラー設備に関する事項	工場	○
		・エコドライブと走行ルートの適正化(ガソリン)	営業部	○
		・不必要なガスは消す	フードサービス	○
		・食器のまとめ洗い(LPG)	フードサービス	○
	廃棄物排出量の削減	・食品ロスを2030年度までに2018年度比50%に削減する	全事業所	○
		・TPM活動の取り組みによるロスの削減実施	工場	○
・段ボールのリサイクル化への転換		全事業所	○	
・廃プラ等包装材料の改善		全事業所	○	
・資源廃棄物の分別回収の徹底		全事業所	○	
・仕入れ、仕込みの適正化		フードサービス	○	
容器包装の発生抑制、再商品化	・商品ロス削減の啓蒙	全事業所	○	
	・不要商品在庫の削減	本社・営業部	○	
総排水量の削減	・容器包装の減量化	研究開発・企画部 ・生産部	○	
	・節水運動の推進	全事業所	○	
化学物質使用量の適正利用	・水漏れ箇所の点検修理	全事業所	○	
	・購入化学物質一覧表の作成	工場・研究開発	○	
グリーン購入	・購入化学物質のSDS管理	工場・研究開発	○	
	・グリーン購入法の適合商品の購入	全事業所	△	
環境に配慮した製品提供	・環境に配慮した製品提供(全事業所)	全事業所	○	
	・環境に配慮した原材料、梱包包装材の購入	全事業所	△	
環境コミュニケーション(教育訓練)	・各協会、団体主催の講習会、研修会への参加(全事業所)	全事業所	○	
	・TPM(Total Productive Maintenance)活動	工場	○	

評価基準：○実施している、△手がけているが不十分、×手がけていない

## 5. 環境目標とその実績

二酸化炭素排出量の削減は、2030年目標、2013年度比50%削減とする。

食品廃棄物発生量・廃棄物排出量の削減は、2030年度目標、2018年度食品廃棄物の50%削減

各年再生利用率98%、熱回収を除く実施率80%以上を目指す。

水の総使用量の削減と化学物質使用量(PRTR指定物質)の実数把握とする。

電力排出係数は北海道電力:0.593、東北電力:0.519、東京電力:0.457、中部電力:0.431、関西電力:0.34を使用。

### 全社

CO2排出総量(CO2 <sub>t</sub> ) 2030年目標、2013年度比50%削減					
項目	年度	2013年度	目標値と実績		評価
	単位	実績	目標	実績	
二酸化炭素排出量	t-CO2/年	12,307.7	6,153.9	4,403.1	○
電力使用による二酸化炭素排出量	t-CO2/年	7,555.7	3,777.9	533.6	○
食品ロス削減 2030年度目標、2018年度食品廃棄物の50%削減 各年再生利用率98%、熱回収を除く実施率80%以上を目指す					
項目	年度	2018年度	目標値と実績		評価
	単位	実績	目標	実績	
食品廃棄物発生量	t	1,539	761	914	×
食品廃棄物の再生利用等の実施率(熱回収を含む)	%	96.6%	98.0%	97.2%	×
食品廃棄物の再生利用等の実施量(熱回収を含む)	t	1,487	745	516	○
食品廃棄物の再生利用等の実施率(熱回収を除く)	%	31.8%	80.0%	43.5%	×
食品廃棄物の再生利用等の実施量(熱回収を除く)	t	489.0	608	398	○
発生抑制量	t		1,030.0	1,022.4	×
販売、生産計画で大きな変動が生じることから目標値は定めない、実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
水総使用量	m3/年	374,133	—	391,449	—
PRTR対象事業者に当たらないため、PRTR指定物質の実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
化学物質使用量(PRTR指定物質)	kg	—	—	254	—

喜連川工場

CO2排出総量(CO2 <sub>t</sub> ) 2030年目標、2013年度比50%削減					
項目	年度	2013年度	目標値と実績		評価
	単位	実績	目標	実績	
二酸化炭素排出量	t-CO2/年	3,951.5	1,975.8	1,364.4	○
電力使用による二酸化炭素排出量	t-CO2/年	2,389.3		0.0	○
食品ロス削減 2030年度目標、2018年度食品廃棄物の50%削減 各年再生利用率98%、熱回収を除く実施率80%以上を目指す					
項目	年度	2018年度	目標値と実績		評価
	単位	実績	目標	実績	
食品廃棄物発生量	t	280.0	140	411.1	×
食品廃棄物の再生利用等の実施率(熱回収を含む)	%	95.6%	98.0%	95.3%	×
食品廃棄物の再生利用等の実施量(熱回収を含む)	t	268	137	389.5	×
食品廃棄物の再生利用等の実施率(熱回収を除く)	%	11.3%	80.0%	5.3%	×
食品廃棄物の再生利用等の実施量(熱回収を除く)	t	32	112	21.6	○
発生抑制量	t		90.0	0.0	×
販売、生産計画で大きな変動が生じることから目標値は定めない、実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
水総使用量	m3/年	142,681	—	150,944	—
PRTR対象事業者に当たらないため、PRTR指定物質の実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
化学物質使用量(PRTR指定物質)	kg	—	—	113.0	—

下栗工場

CO2排出総量(CO2ト) 2030年目標、2013年度比50%削減					
項目	年度	2013年度	目標値と実績		評価
	単位	実績	目標	実績	
二酸化炭素排出量	t-CO2/年	2,318.8	1,159.4	952.5	○
電力使用による二酸化炭素排出量	t-CO2/年	1,585.9	0.0	0.0	○
食品ロス削減 2030年度目標、2018年度食品廃棄物の50%削減 各年再生利用率98%、熱回収を除く実施率80%以上を目指す					
項目	年度	2018年度	目標値と実績		評価
	単位	実績	目標	実績	
食品廃棄物発生量	t	99	49.5	95.8	×
食品廃棄物の再生利用等の実施率(熱回収を含む)	%	96.5%	98.0%	95.1%	×
食品廃棄物の再生利用等の実施量(熱回収を含む)	t	96	48.5	93.7	×
食品廃棄物の再生利用等の実施率(熱回収を除く)	%	30.3%	80.0%	2.2%	×
食品廃棄物の再生利用等の実施量(熱回収を除く)	t	30	39.6	2.2	○
発生抑制量	t		46.0	45.6	×
販売、生産計画で大きな変動が生じることから目標値は定めない、実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
水総使用量	m3/年	95,523	—	152,660	—
PRTR対象事業者に当たらないため、PRTR指定物質の実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
化学物質使用量(PRTR指定物質)	kg	—	—	7,289.0	—

関西工場

CO2排出総量(CO2 <sub>t</sub> ) 2030年目標、2013年度比50%削減					
項目	年度	2013年度	目標値と実績		評価
	単位	実績	目標	実績	
二酸化炭素排出量	t-CO2/年	2,450.3	1,225.2	883.9	○
電力使用による二酸化炭素排出量	t-CO2/年	1,651.1	0.0	0.0	○
食品ロス削減 2030年度目標、2018年度食品廃棄物の50%削減 各年再生利用率98%、熱回収を除く実施率80%以上を目指す					
項目	年度	2018年度	目標値と実績		評価
	単位	実績	目標	実績	
食品廃棄物発生量	t	428	214	346.2	×
食品廃棄物の再生利用等の実施率(熱回収を含む)	%	0.0%	98.0%	99.9%	○
食品廃棄物の再生利用等の実施量(熱回収を含む)	t	0	210	4.1	○
食品廃棄物の再生利用等の実施率(熱回収を除く)	%	100.0%	80.0%	98.8%	○
食品廃棄物の再生利用等の実施量(熱回収を除く)	t	428.0	171.2	342.1	×
発生抑制量	t		190.0	187.0	×
販売、生産計画で大きな変動が生じることから目標値は定めない、実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
水総使用量	m3/年	95,990	—	79,453	—
PRTR対象事業者に当たらないため、PRTR指定物質の実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
化学物質使用量(PRTR指定物質)	kg	—	—	57.2	—

営業部

CO2排出総量(CO2 <sup>t</sup> ) 2030年目標、2013年度比50%削減					
項目	年度	2013年度	目標値と実績		評価
	単位	実績	目標	実績	
二酸化炭素排出量	t-CO2/年	518.8	259.4	219.1	○
電力使用による二酸化炭素排出量	t-CO2/年	232.2	116.1	37.6	○
食品ロス削減 2030年度目標、2018年度食品廃棄物の50%削減 各年再生利用率98%、熱回収を除く実施率80%以上を目指す					
項目	年度	2018年度	目標値と実績		評価
	単位	実績	目標	実績	
食品廃棄物発生量	t	703	352	45.4	○
食品廃棄物の再生利用等の実施率(熱回収を含む)	%	95.0%	98.0%	98.5%	○
食品廃棄物の再生利用等の実施量(熱回収を含む)	t	668	344	13.4	○
食品廃棄物の再生利用等の実施率(熱回収を除く)	%	0.0%	80.0%	70.5%	×
食品廃棄物の再生利用等の実施量(熱回収を除く)	t	0	281	32.0	○
発生抑制量	t		880.0	870.9	×
販売、生産計画で大きな変動が生じることから目標値は定めない、実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
水総使用量	m3/年	591	—	324	—
PRTR対象事業者に当たらないため、PRTR指定物質の実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
化学物質使用量(PRTR指定物質)	kg	—	—	—	—

FS部

CO2排出総量(CO2ト) 2030年目標、2013年度比50%削減					
項目	年度	2013年度	目標値と実績		評価
	単位	実績	目標	実績	
二酸化炭素排出量	t-CO2/年	678.7	576.9	949.6	×
電力使用による二酸化炭素排出量	t-CO2/年	196.4	166.7	474.5	×
食品ロス削減 2030年度目標、2018年度食品廃棄物の50%削減 各年再生利用率98%、熱回収を除く実施率80%以上を目指す					
項目	年度	2018年度	目標値と実績		評価
	単位	実績	目標	実績	
食品廃棄物発生量	t	11	5.5	15.5	×
食品廃棄物の再生利用等の実施率(熱回収を含む)	%	95.0%	98.0%	95.0%	×
食品廃棄物の再生利用等の実施量(熱回収を含む)	t	10	5.4	15.5	×
食品廃棄物の再生利用等の実施率(熱回収を除く)	%	0.0%	80.0%	0.0%	×
食品廃棄物の再生利用等の実施量(熱回収を除く)	t	0	4.4	0	—
発生抑制量	t		300	0	—
販売、生産計画で大きな変動が生じることから目標値は定めない、実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
水使用量	m3/年	7,954	—	6,370	—
PRTR対象事業者に当たらないため、PRTR指定物質の実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
化学物質使用量(PRTR指定物質)	kg	—	—	—	—

本社

CO2排出総量(CO2 <sub>t</sub> ) 2030年目標、2013年度比50%削減					
項目	年度	2013年度	目標値と実績		評価
	単位	実績	目標	実績	
二酸化炭素排出量	t-CO2/年	83.4	41.7	27.0	○
電力使用による二酸化炭素排出量	t-CO2/年	29.7	14.9	21.4	×
項目					
食品廃棄物発生量	t	0.0	0.0	0.0	—
販売、生産計画で大きな変動が生じることから目標値は定めない、実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
水総使用量	m3/年	805	—	754	—

研究開発部

CO2排出総量(CO2 <sub>t</sub> ) 2030年目標、2013年度比50%削減					
項目	年度	2013年度	目標値と実績		評価
	単位	実績	目標	実績	
二酸化炭素排出量	t-CO2/年	73.3	36.7	6.7	○
電力使用による二酸化炭素排出量	t-CO2/年	64.4	32.2	0.0	○
項目					
食品廃棄物発生量	t	0.0	0.0	0.0	—
販売、生産計画で大きな変動が生じることから目標値は定めない、実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
水総使用量	m3/年	1,332	—	944	—
PRTR対象事業者に当たらないため、PRTR指定物質の実数把握とする。					
項目	年度	2018年度	実数把握		評価
	単位	実績	目標	実績	
化学物質使用量(PRTR指定物質)	kg	—	—	—	—

6, 次年度の環境目標及び環境経営計画

環境目標		今後の取組み	取組内容	2025年年度目標	2026年年度目標
二酸化炭素排出量の低減	電力による二酸化炭素排出量	継続	・3工場の省エネ診断実施	605 CO2トン	605 CO2トン
		継続	・省エネ設備導入に向けての調査・策定		
		継続	・不要な点灯をなくす		
		継続	・エアコンの適正温度設定		
		継続	・パソコン、OA機器の不使用时電源OFF		
			・動力設備(高圧機器)に関する事項 ・不要時の暖房機・照明・空調の過剰使用厳禁		
	化石燃料の削減	継続	・ボイラー設備に関する事項	3,702 CO2トン	3,702 CO2トン
		継続	・エコドライブと走行ルート of 適正化(ガソリン)		
		継続	・不必要なガスは消す		
		継続	・食器のまとめ洗い(LPG)		
廃棄物排出量の削減	継続	・食品ロスを2030年度までに2018年度比50%に削減する	食品廃棄物発生量 705 トン	食品廃棄物発生量 705 トン	
	継続	・TPM活動の取り組みによるロスの削減実施			
	継続	・段ボールのリサイクル化への転換	食品廃棄物の再生利用等の実施 (熱回収を含む) 98%	食品廃棄物の再生利用等の実施 (熱回収を含む) 98%	
	継続	・廃プラ等包装材料の改善			
	継続	・資源廃棄物の分別回収の徹底			
	継続	・仕入れ、仕込みの適正化			
食品リサイクル(食品廃棄物)再生利用等実施率の改善	継続	・食品ロスを2030年度までに2018年度比50%に削減する	食品廃棄物の再生利用等の実施 (熱回収を除く) 80%	食品廃棄物の再生利用等の実施 (熱回収を除く) 80%	
	継続	・商品ロス削減の啓蒙			
	継続	・不要商品在庫の削減			
容器包装の発生抑制、再商品化	継続	・容器包装の減量化(工場)	工程上のロスの削減、生産販売での過剰在庫も削減	工程上のロスの削減、生産販売での過剰在庫も削減	
総排水量の削減	継続	・節水運動の推進	工程上のロスの削減、生産販売での過剰在庫も削減	工程上のロスの削減、生産販売での過剰在庫も削減	
	継続	・水漏れ箇所の点検修理			
化学物質使用量の適正利用	継続	・購入化学物質一覧表の作成	工程上のロスの削減、生産販売での過剰在庫も削減	工程上のロスの削減、生産販売での過剰在庫も削減	
	継続	・購入化学物質のSDS管理			
グリーン購入	継続	・グリーン購入法の適合商品の購入			
環境に配慮した製品提供	継続	・環境に配慮した製品提供(全事業所)	工程上のロスの削減、生産販売での過剰在庫も削減	工程上のロスの削減、生産販売での過剰在庫も削減	
	継続	・環境に配慮した原材料、梱包包装材の購入			
環境コミュニケーション(教育訓練)	継続	・各協会、団体主催の講習会、研修会への参加(全事業所)		工程上のロスの削減、生産販売での過剰在庫も削減	
	継続	・TPM(Total Productive Maintenance)活動			

7. 環境関連法規等の遵守状況、及び違反などの有無

(1) 当社が遵守すべき法規制などの遵守状況

環境関連法規名	要求事項	関連設備	遵守評価	
廃棄物処理法	・一般廃棄物の収集業者との契約と許可書確認	一般廃棄物	許可書	○
	・廃棄物の収集運搬・処理業者との契約と許可書	産業廃棄物	契約書	○
	・廃棄物保管置場の基準(表示)		許可書	○
	・マニフェストの交付と管理保管		マニフェスト	○
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書		報告書	○
食品リサイクル法	・食品廃棄物のリサイクルの実施率	食品廃棄物	再利用の実施率	○
	・年間100t以上の排出事業者の報告義務		定期報告書	○
容器包装リサイクル法	・排出抑制状況の定期報告書	プラスチック容器	定期報告書	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律	・定期報告書の提出(第1種特定事業者)	エネルギー使用設備	定期報告書	○
	・エネルギー管理者等の選出		届出	○
騒音規制法	・特定施設の届出	コンプレサー等	届出	○
水質汚濁防止法	・工場排水の測定・記録	排水設備	規制基準	○
水道法	・水質基準に適合すること	井水処理装置	検査報告書	○
		受水槽の清掃	記録	○
浄化槽法	・定期検査の実施	浄化槽	検査記録	○
消防法	・消防設備等の点検	消火機器、消火栓、誘導灯、火災報知器	点検結果報告書	○
	・自衛消防組織表	組織図	届出	○
	・小型貫流ボイラー(LPG)	ボイラー	届出	○
電気事業法	・年次、月次点検の実施	受変電設備	年次点検報告書	○
フロン排出抑制法	・廃棄時の適正処理	冷凍空調機	引取り証明書	○
	・7.5Kw～50KW以上の点検	冷凍空調機	点検記録	○
PCB廃棄物の保管	・PCB廃棄物の保管及び処分状況報告書	コンデンサー等	届出	○
高圧ガス保安法	・高圧ガス製造許可申請書	冷凍機	届出	○
	・高圧ガス冷凍管理者届書(冷凍)	冷凍機	届出	○
	・冷凍保安責任者届書	冷凍機	届出	○
	・高圧ガス保安協会保安検査受験届書	冷凍機	届出	○
	・冷凍設備 定期点検成績書	冷凍機	届出	○
大気汚染防止法	・ボイラーの設置届出	重油ボイラー	届出	○
食品衛生法	・食品衛生管理者の設置	工場・店舗	届出	○
毒物・劇物取締法	・置場表示と保管管理、	工場・検査室	規制基準	○

※法規制の確認は事務局、各事業所、統括部署で業界団体、行政からの情報を収集している。

事務局、本社(統轄部門長)では官報を回覧参照し、関係法令を確認している。

(2) 環境関連法規の違反の有無

- 1) 当社に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反は、ありませんでした。
- 2) 関係当局よりの違反などの指摘及び訴訟等はありません。

## 喜連川工場 2023.9～2024.8

### 1. 電力・都市ガス由来CO2の削減

- ・目標3806tco2/年 ⇒実績3850tco2/年(未達成)
- ・売上原単位目標0.00096tco2/千円 ⇒実績0.00080 tco2/千円(達成)

### 2. 食品廃棄物の削減

- ・目標193.055 kg/年 ⇒ 実績406.88 t/年(未達成)
- ・売上原単位目標0.057 kg/千円 ⇒0.092kg/千円(未達成)

#### 工場長コメント:

- ・ベンチマークの2021年に対し、CO2の削減は電気、化石燃料の使用量はラインが増加したこともあり増加してしまいましたが原単位では目標をクリアすることができました。
  - ・食品廃棄物に関しては上期の中華饅頭のロスが多発してしまい目標を大きく下げる要因となってしまいました。
- ※来期は新設備(FEライン)が導入される為、目標管理に向け達成できるように努力

## 関西工場 2023.9～2024.8

### 電力・LPG由来CO2の削減

- 目標2446tco2/年 ⇒ 実績884tco2/年(達成)
- 売上原単位目標0.00076tco2/千円 ⇒ 実績0.00021tco2/千円(達成)

### 食品廃棄物の削減

- 目標414,616kg/年 ⇒ 実績261,470kg/年
- 売上原単位目標0.123kg/千円 ⇒ 0.062kg/千円

#### 工場長コメント:

ベンチマークの2021年に対し、電力使用量は削減出来ました。LPG使用量は増加となりました。売上が132%と大きく伸びた為、目標達成出来ました。2023年7月からCO2フリー電気契約となった事も1つの要因となります。

食品廃棄物に関しては、中華饅頭生産では横ばいでしたが、アイスではTPM活動での動画分析による改善活動の結果、ロス削減が出来た為、目標達成する事が出来ました。

## 下栗工場 2023.9～2024.8

### 1. 電力・都市ガス由来CO2の削減

- ・目標1073tco2/年 ⇒実績950tco2/年(達成)
- ・売上原単位目標0.000437tco2/千円 ⇒実績0.0004375 tco2/千円(達成)

### 2. 食品廃棄物の削減

- ・目標791,103 kg/年 ⇒ 実績564,650 t/年(達成)
- ・売上原単位目標0.322 kg/千円 ⇒0.237kg/千円(達成)

#### 工場長コメント:

・ベンチマークの2021年に対し、生産数減(2Lラインの喜連川工場移管)に伴い、電力、都市ガスいずれも使用量減となった。都市ガスは、電気設備工事の関連で2023年2月～11月まで使用できなかったこともあり、大幅な減となった。CO2排出量も2023年4月からとちぎふるさと電気の採用により、CO2排出量ゼロとなり、目標を前年並みの35%に設定したが、それをさらに下回る結果となった。

- ・食品廃棄物も同じくベンチマークに対し、製造量減となり目標を達成した。また、目標の1つであるである規格外製品も少なく、アイスに関しては自社にて処理したことで廃棄物排出量の低減に繋がった。

## 2024年度(2023年9月～2024年8月)各部見解

### ※本社部門(総務管理)

・Co2に関しては2013年度対比48%(41.7t減)とすることができた。ボイラーを廃止しエアコンへ切り替えた影響が大きいですが、電力も102.6%(1843kwh)増に抑えられている。

#### ・2024年4月11日より非化石電力を導入

・ガソリンもハイブリッド車導入により使用量を対2013年度 62.1%(-1411.7ℓ)とすることができた。

・来期もクールビス・ウォームビズの継続及びエコドライブの啓蒙を行い、Co2削減を進めていく。

・SDG2会議を通し、毎月の推進項目を決め、従業員二酸化炭素排出量削減や廃棄物の削減に向け課題を決め啓蒙している。

・一般廃棄物は年々減少、リサイクルの推進は缶やペットボトルキャップについて継続実施している。

### ※営業部

#### 省エネルギーCO2削減

全ての項目において目標達成できた。

・全体では電力使用量の削減が達成できているが、東北支店のみ達成できていない。理由として配送車のスタンバイに電力を使用しているため、改善策と実施により数値をさらに改善していく。

・ハイブリット車によりCO2削減もが通年続いているが、東京支店など交通渋滞が起きやすい地域では燃費の悪化や、CO2排出量が増えている。そのため引き続きエコドライブによる削減を目指していく。

#### 廃棄物の削減(営業由来のみ)

・今期も販売不能品及びローソン饅頭販売終了による廃棄となる。

・再生利用については、基準年度2018年度は6.44%だったが、2024年度は90.5%となり、9割がた再生利用での処分比率となった。

・遊休商品については輸出による販売が主となっているため、営業全体で販促に

### ※フードサービス部

- ・年間を通して、売上が増加したことにより、ガス使用量が増加してしまっているが、売上原単位で見ると、目標値を達成することができ、二酸化炭素排出量の削減も達成することができた。電力、LPG、都市ガスの使用を少しでも減らせるよう、日々節電、不要なガスの使用を減らす努力をしていく。
- ・年間を通して、食品廃棄物発生量の削減未達成である。目標の値(2018年度)は、上河内SAのみの発生量であるため(東海PA、宇都宮営業所は昨年度より計測開始)、2店舗の数字は含まれていない。
- ・上河内SAのみの数字と比較すると、売上原単位145%、約1,520kg増加となってしまった。客数で見ると、目標値に対し、136%、0.03kg/人の増加となってしまった。閑散期に廃棄量が多い傾向がみられることから、期限切れの商品のロスや仕込み量などに注意し製造していく。
- ・廃プラスチックの発生量は削減することができている。木製のスプーンやフォークに切り替えているが、今後紙類の包材やストロー類の変更等、なるべく簡易包装をするなど容器包材の使用を減らせるような取り組みを検討していく。

### ※研究開発部

- ・二酸化炭素の排出量に関しては、第4四半期(6月7月8月)は達成したが、通期では未達成。
- ・下期では廃棄物の排出量は増えてしまったが、通期では減少した。ただし、目標の88%には届かなかった。(89.7%)
- ・二酸化炭素の排出量に関しては、下栗工場がふるさと電気を導入したため、下栗工場経由で受電している研究開発部での電力からの二酸化炭素排出量が「ゼロ」換算となり目標は達成された。(基準年の12.4%に減少した)

前期 トップマネジメントレビューのアウトプット

2023年10月

- ・二酸化炭素の排出量は、グリーンメニューの導入により大幅に削減が出来ている。今後は、都市ガス、LPG、ガソリンを再生可能エネルギーに切り替えていくかが課題となる。情報を収集し切り替えを計画的に進めること。
- ・食品ロスの削減については、基準年度に対して50%以下に削減する目標は達成できた。皆さんの活動は大いに評価できる。これを維持しさらに削減出来るよう取り組みの推進を期待する。但し、再生利用率は、目標値を下回っていることに加え熱回収率が高いことは課題である。引き続き肥飼料に再生できる施設の調査に当たり、熱回収比率の低減を進めること。

代表取締役社長 齋藤貞大

【二酸化炭素の排出削減について】

- ・2013年度二酸化炭素排出量比目標50%削減に対し64.26%の削減となっている  
3工場で契約電力をグリーンメニュー（排出係数ゼロ）への切り替えにより排出量の削減となった。
- ・工場の排水施設で使用している高容量モーター等の高効率モーターへの切り替えが電力使用量の削減効果実績として出ているので今後も順次進めていく。
- ・3工場におけるTPM活動のライン停止分析等の共有化が図れ生産低下の削減傾向があるので今後も継続し、生産性の工場及び食品ロスの削減を図ること。
- ・営業車のハイブリッド車変更でガソリンの削減に結果が出ているのでこれからも実施していく
- ・本社のハイブリッド車変更でもガソリンの削減に結果が出ているのでこれからも実施していく
- ・各事業所の環境経営活動の進捗及び情報を環境管理チームリーダ会議を継続していくことでさらにさらに活性化する。

【食品廃棄物・食品リサイクルについて】

- ・本年度は、2018年度目標に対し40.6%の削減となった。
- ・新商品立ち上げ時の商品ロス発生が課題であり、商品の企画開発段階から工程ロス削減を視野に入れラインテスト等でよりリスクの洗い出しが必要となる。
- ・生販計画の見直しを常に行いムリ・ムダ・ムラの無い生産計画を進める。
- ・発生ロスをTPM実施により定常的に解決できる仕組みを構築していく。  
（各部の環境目標に沿って展開し月毎に対策と対応を行う）
- ・再生利用率は、依然として熱回収比率が高い、肥料や飼料などへのリサイクル施設の調査を継続して行い、自然リサイクル対策を今後とも強化検討していく。
- ・営業部においては遊休商品の販促を行い実績が出ている。今後も遊休商品の廃棄を減少させて行く。

【その他】

- 再生利用可能な包装資材、自然に戻すことのできる素材の調査と情報の収集を行う。
- ・現在進めているバイオインキの使用やプラスチック成分の少ない包装フィルム等を促進していく。
- ・TPM、SDGs等々の活動が進められ、推進委員会の月毎のSDGs関連活動内容を啓蒙促進している。
- ・積極的にクリーン推進として各河川・公園でフタバ主催のクリーンイベントを実施、外部団体との交流とゴミ拾い等を啓蒙していく。

【その他】	
再生利用可能な包装資材、自然に戻すことのできる素材の調査と情報の収集を行う。	
・現在進めているバイオインキの使用やプラスチック成分の少ない包装フィルム等を促進していく。	
・TPM、SDGs等々の活動が進められ、推進委員会の月毎のSDGs関連活動内容を啓蒙促進している。	
・積極的にクリーン推進として各河川・公園でフタバ主催のクリーンイベントを実施、外部団体との交流とゴミ拾い等を啓蒙していく。	
<b>トップマネジメントレビューのアウトプット</b> <b>2024年11月17日</b>	
1. 二酸化炭素排出量の削減について	
目標を前倒しで達成できたことは、評価します。次年度からは、電力以外から発生する二酸化炭素の削減に向けて削減計画を立案し進めること。	
2. 食品廃棄物の削減について	
・目標値及び前年実績を大きく増加している。特に生産工場での増加が大きい。発生原因は特定されているので対策を立て削減に向けて取り組みを進めること。	
営業関係の遊休商品の販促は、食品ロスの削減に大いに貢献している活動である、今期以降もこの取り組みを積極的に進めて食品ロス削減をさらに進めてもらいたい。	
・再生利用率(熱回収を除く)は、昨年と同程度であり、目標値を大幅に下回っている。肥飼料等の処理施設を調査し再生利用率高めていくこと。	
3. その他	
現在進めている、環境保全活動、包装資材のプラスチックの削減、TPM、SDGsの取り組みを積極的に進めて社内に各取り組みの重要性を啓蒙して行ってもらいたい。	
署名欄	齋藤 貞大